

光が拓く、 がん治療の 新しい道。

INDEX

巻頭 特集

光免疫療法、展開中

■ 附属病院

新任センター長に聞く	木下 秀文	04
新任部長に聞く	伊藤 量基	05
新任部長に聞く	倉田 宝保	06
新任教授に聞く	蓮尾 英明	07
新任教授に聞く	天神 博志	08
歯科・口腔外科	兒島 由佳	09
口腔ケアセンターのご紹介		

■ 総合医療センター

新任部長に聞く	朴 幸男	10
センター長に聞く	野村 昌作	11
新任教授に聞く	吉村 智雄	12
がん看護外来	大橋 理紗	13

■ 香里病院

新任部長に聞く	延山 誠一	14
新任センター長に聞く	高橋 延行	15
アレルギー疾患への取り組み	濱田 聡子	16
感染制御部のご紹介		

■ くずは病院

新任医師に聞く	杉本 崇幸	17
新任医師に聞く	水野 一秀	17

■ 天満橋総合クリニック

新院長に聞く	大宮 美香	18
--------	-------	----





新しい光が照らす、 がん治療の新しい道 光免疫療法、展開中。

新しい選択肢。

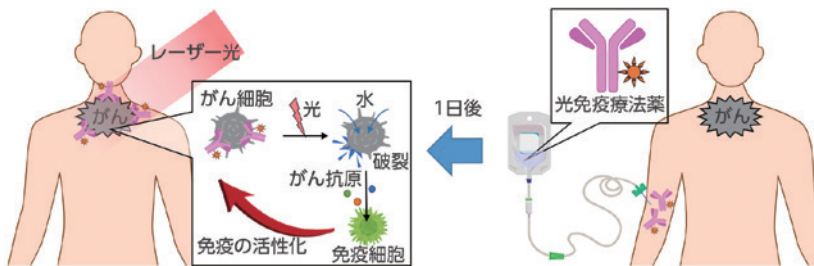
本学が今年4月に開設した附属光免疫医学研究所の所長、小林久隆特別教授が開発した全く新しいがん治療アプローチ。それが光免疫療法です。2020年9月に頭頸部がんで保険収載され、手術・放射線・抗がん剤免疫に続く「第5の標準治療」として、大きな期待が寄せられています。本学は2021年4月、附属病院に光免疫療法センターを設置し、これまで2例の症例でこの治療法を実施しました。結果、そのどちらも一定の臨床的有用性が認められ、これまで治療法の選択肢のなかった患者さんに新しい道を示すことができるようになりました。

本学は今後も、光免疫療法センターと光免疫医学研究所が両輪となって、さらなる治療効果の向上や適応がん腫の拡大に取り組んでいきます。

保険適用となる条件

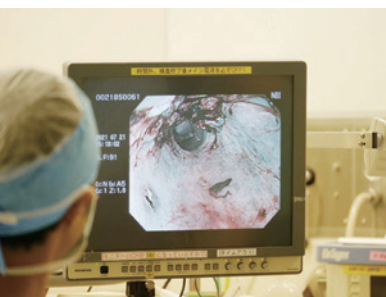
- ◎ 切除不能な局所進行又は局所再発の頭頸部がん
 - ◎ 化学放射線療法等の標準的な治療が可能な場合にはこれらの治療を優先すること
 - ◎ 頸動脈や大血管へがん細胞が浸潤していないこと
- アキラルクス®に含まれる成分に対して、アレルギー反応が現れたことがある方は、対象とならない可能性があります

※1…放射線治療について、根治線量までは問いません

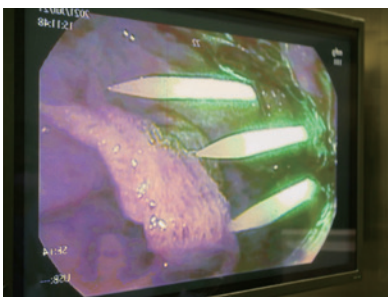


- ② 1日程度で薬ががん細胞に結合 → レーザー光を照射
- ③ がん細胞から放出された物質（がん抗原）により、がんに対する免疫の活性化

- ① 光に反応する薬剤（光免疫療法薬）を点滴により投与



近赤外光の照射が完了し、がん細胞の状況を確認する様子。目視で分かるほど、がん細胞へのダメージが生じています。



咽喉部にあるがん細胞部分へ挿入された光ファイバー先端部。白く尖って見える3本のパーツは挿入ガイド用のパーツです。



術野に挿入するための光ファイバー先端部（手前側、緑色に光る3本の線）。近赤外光の照射前は、緑色に発光しています。



光免疫療法で用いる近赤外線光の照射装置。照射タイプ・時間はタイマーで管理されており、術者の負担が軽減されています。

よくあるご質問

Q 標準治療ほどの程度行う必要がありますか？

A 根治を目的とした標準治療(薬物・放射線・手術など)が行われている必要がありますが、放射線治療については線量を問いません

Q 遠隔転移がある場合でも適用されますか？

A 病状によっては適応されますが、転移先の腫瘍にまで効果があることは確認できていません

Q がんの大きさによって適応は左右されますか？

A 基本的にサイズは影響しませんが、頸動脈や大血管に浸潤していると治療できません

Q 患者さんの費用負担はどの程度ですか？

A 年齢や収入などの条件によって自己負担額は異なりますが、高額療養制度などを活用すれば、多くても1ヶ月約10万円前後になると思われます



Q 切除不能な局所進行又は局所再発の頭頸部がん以外のがんは、保険外で治療してもらえますか？

A 恐れ入りますが現在のところ他の癌腫は対象とならず、治療できません

Q 他の治療(抗がん剤、放射線など)と並行して受けられますか？

A 標準治療の完了が条件ですので、現在のところ他の治療法との併用は行っておりません

Q 免疫機能が惹起されると聞きましたが

A 光免疫療法によってがん細胞が破壊された場合、がん抗原が周囲にばらまかれます。それを免疫細胞が取り込むことで、当該がんに対する免疫が獲得・強化され、残存するがん細胞を攻撃すると考えられています
このメカニズムを利用し、免疫チェックポイント阻害薬を使用することでさらに高い治療効果を得ることができるかが、今後の課題となっています

センター長ご挨拶

日本人の2人に1人ががんになる、と言われる現代社会において、私どもが展開しているのは、小林久隆先生が開発された光免疫療法、「頭頸部アルミノックス治療」という方法で、国から認可された保険適応のある治療法です。

増大するがんを抑制し、さらに、がんを治すことが私どもの使命。本治療法はまだ一部のがんに限り行われますが、今年4月に設置された「光免疫医学研究所」と密に連携し、頭頸部がんや転移、先行治療歴に限らない様々ながんにも適応を広げていければと考えています。

地域の先生方にはこれからも、変わらぬご指導・鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

地域の先生方へお願いしたいこと

光免疫療法を実施後、光線過敏症や皮膚障害(発赤、皮疹)を呈したり、治療した部分や周辺血管から出血することが分かっています。かかりつけの先生方におかれましては、それらの副反応を注意深くご観察いただき、適切に処置していただくようお願い申し上げます。なお、急変・急速な増悪が認められた際は、本学附属病院の受診をご手配ください。

センター長



耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授

岩井 大



耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 講師

藤澤 琢郎



耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 講師

鈴木 健介

その他よくある質問などは
附属病院webサイトの
光免疫療法センター
ページをご覧ください。



当センターへ患者さんをご紹介いただく場合

当センターでの光免疫療法をご検討の場合は、地域医療連携部へご連絡ください。

地域医療連携部：TEL.072-804-2742

関医タワーホテル、誕生。

遠方からの入院の前泊や付き添いに…
 長時間に渡る外来治療後のご休息に…
 外来通院や救急搬送付き添い時のご宿泊に…
 患者さんご家族様であればごなためでも、
 ご宿泊・ご休憩にご利用いただけます



急変時 救急対応

駅徒歩
約5分

眺望
良好

病院
敷地内

6月1日(水)、本学附属病院敷地内に高さ115.95m、延床面積5,229.7㎡を有する枚方市内で最も高い建物「関医タワー」がオープンし、同タワー内に患者さんご家族様のための宿泊施設「関医タワーホテル」が開業しました。このホテルは、遠方から外来・入院で附属病院へ来られる患者さんやご家族様が受診前日に来院されるとき、外来通院の付き添いで来院されるとき、長時間に及ぶ化学療法・放射線治療を終えられた患者さんが体調を整えられるとき、夜間救急搬送された患者さんのご家族様が始発電車の稼働を待ちになるときなどに利用可能です。

客室数は全24室(シングルルーム15室、ツインルーム8室、バリアフリーツイン1室)を用意しており、宿泊は税込み5,500円からツインズナブルな料金体系を採用。附属病院敷地内という好立地を活かし、万が一の急変時には救急

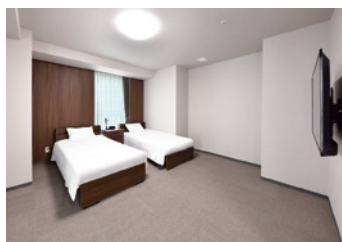
医学科の診察を迅速に手配できるなど、まさに「大学病院クオリティ」のホテルとなっています。

本学は、医学部・医科大学が直接運営する敷地内ホテルの第一人者として、今後ますますニーズの高まりが予想される高度で先進的な医療を安全・安心できる形で提供するため、「関医タワーホテル」を運営していきます。



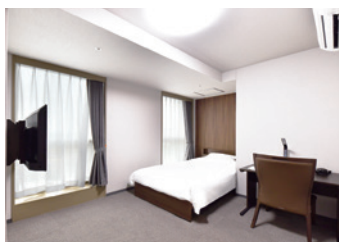
1Fエントランスホール

落ち着いた雰囲気ご利用者の心を癒やします



ツインルーム

ゆとりの広さを持つツインルーム



シングルルーム

テレビはもちろん、作業デスクも完備

シームレスな体制を築き
医療資源をロスなく活用できる
地域づくりへ貢献したい

Speciality Service Interview

新任センター長に聞く

地域医療センターは、関西医大系列の5つの施設(4病院+クリニック)について、地域医療連携業務を推進する役割を担っております。各地域における取り組みは各施設の地域医療連携担当部門が窓口であり、当センターでは各施設の施策を後押しするための企画や立案、統合調整を行います。

この春センター長に着任し、注力したいと考える課題は大きく2つです。まず、各施設の全ての医師が「各地域の先生方と顔で繋がっている」状態を目指すということです。地域の先生が「この症状ならあの先生に」と、紹介先に迷うことがないよう道筋を強化する広報活動を展開してまいります。同時に、各施設の医師が地域の先生方の得意分野を深く理解し、当方からの紹介をスムーズにするための施策も展開してまいります。患者さんにきめ細やかな医療サービスを提供するためには、登録医の先生方や連携病院との関係性をさらに高めつつ、登録医を増やしていくことも大切な任務であると考えています。

2つめの課題が、病床をより効率良く手配する体制を築くことです。私たちは「断らない病院を目指し鋭意努力しておりますが、待たせない病院」でもあるべきと考えます。そのためには附属病院・香里病院・総合医療センター・くずは病院のそれぞれの特長を活かし、よりシームレスな体制をつくるのが喫緊の課題です。地域の先生方から「関西医大系列ならどの病院に紹介しても、内部の連携がしっかりしているから安心」と思っていたら、ただのよう、まずは4病院の課題を洗い出し、受入体制をさらに強化してまいります。



関西医科大学附属病院
地域医療センター
センター長

木下 秀文

Hidefumi Kinoshita

PROFILE

- 1988年3月 京都大学医学部 卒業
- 1988年6月 京都大学医学部附属病院 泌尿器科 研修医
- 1990年4月 倉敷中央病院 泌尿器科 医員
- 1996年11月 米・Wisconsin州立大学 Madison校 リサーチフェロー
- 1999年7月 大阪赤十字病院 泌尿器科 医員
- 2000年4月 京都大学医学部附属病院 泌尿器科 助手
- 2003年4月 京都大学医学部 講師
- 2004年4月 関西医科大学 腎泌尿器外科 准教授
- 2014年8月 関西医科大学附属病院 病院教授
- 2021年4月 関西医科大学 腎泌尿器外科 主任教授
- 2022年4月 関西医科大学 地域医療センター センター長、
関西医科大学附属病院 地域医療連携部 部長

医師の育成・医局の強化を実現し、
血液腫瘍内科の一層の
充実を目指します

関西医科大学附属病院
内科学第一講座 主任教授
血液腫瘍内科 診療部長

伊藤 量基

Tomoki Ito



New Professor Interview

新任部長に聞く

血液疾患に対する治療法の発展は目覚ましく、一昔前であれば治療の難しかった病気で、もその多くが治る、またはコントロール可能になってきました。患者さんにとって喜ばしく、また医師としてもやりがいの高まる展開を迎えておりますが、一方で累積患者数は増加しているという現実があります。そこで喫緊の課題であると感じるのが、医師の育成と医局の強化です。

私はこの春、血液腫瘍内科の診療部長、および関西医科大学内科学第一講座の主任教授に就任いたしました。これまで自身の臨床・研究に懸命に取り組んでまいりましたが、今後はより多くの患者さんに貢献できるように、医局が持つ力の格上げに尽力していきたいと身の引き締まる思いです。

当院の血液腫瘍内科では、ほとんど全ての造血器腫瘍や免疫性血液疾患に対応しています。近隣エリアの医療機関に血液内科が少ないこともあって、診療圏のほぼ全ての血液疾患の患者さんを受け入れており、症例数は全国有数です。日常診療における分子標的治療をはじめとする最先端医療、新規治療薬はもとより、血液悪性腫瘍に対しては抗がん剤、放射線、造血管細胞移植などを組み合わせた治療を実施し、白血病や悪性リンパ腫の治療に関しては、JALSGやJCOGなどのガイドラインに準じた標準的治療を行っておりEBM (Evidence Based Medicine) を遵守しています。また輸血部との強力な連携体制のもと造血幹細胞移植(骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植)にも力を入れていきます。新しい医療を積極的に取り入れ、常に新しいエビデンスに基づいた治療を行える体制を整え

ていますので、お気軽にご相談ください。当科で診る疾患は専門性が高く、複数の病気を合わせ持つ患者さんの全てを担うことはできません。だからからこそ、地域のかかりつけの先生との併診が理想であると考えています。今後も地域の先生方と一緒に、地域医療へ貢献していきたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

PROFILE

- 1992年3月 関西医科大学 医学部 卒業
- 1992年4月 関西医科大学附属病院 内科 入局
- 1994年10月 倉敷中央病院 血液内科
- 1996年4月 関西医科大学大学院 医学研究科博士課程 内科系内科学1専攻
- 2003年1月 米・MD Anderson Cancer Center, Department of Immunology, post-doctoral fellow
- 2006年3月 関西医科大学 第一内科 助手
- 2007年4月 関西医科大学 第一内科 講師
- 2011年4月 関西医科大学 第一内科 准教授、関西医科大学附属滝井病院 (現・総合医療センター) 血液呼吸器膠原病内科 部長
- 2012年7月 関西医科大学附属病院 勤務
- 2015年2月 関西医科大学附属病院 血液腫瘍内科 病院教授
- 2022年4月 関西医科大学 内科学第一講座 主任教授、血液腫瘍内科 診療部長



胸部腫瘍に関する
全国トップレベルの
診療をお届けします

New Professor
Interview

新任部長に聞く

関西医科大学附属病院
呼吸器腫瘍内科学講座 主任教授
呼吸器腫瘍内科 診療部長
がんセンター センター長

倉田 宝保

Takayasu Kurata

呼吸器腫瘍内科学講座は、2022年4月に内科学第一講座より分離独立した講座です。臨床では主に原発性肺がんを中心とした胸部悪性腫瘍の診療を担っており、一般的な呼吸器内科との違いは胸部腫瘍に特化した診療科である点です。

当科の専門性は化学療法にあり、外来化学療法を積極的に実施しています。遺伝子異常検索に基づく分子標的薬剤や、将来有望とされる新しい治療法も積極的に取り入れており、全国トップレベルの呼吸器腫瘍の診断・治療ができる施設であると自負しております。と
きおり地域の先生方から「この程度の症状で紹介してもよいものだろうか」と躊躇することがあるといったご意見を耳にするのですが、当院ですっきり検査しますので、ご安心ください。異常がなく、患者さんに安心していただけることも私たちの喜びであります。呼吸器症状が見られる、胸部レントゲンで陰影があるなど、些細な症状・所見でも気になることがあればご紹介ください。

外来化学療法について申し上げますと、当院にはがんセンターがあり、私はこの春よりセンター長を務めることとなりました。腫瘍内科医である専従医師が4名所属しており、併設する緩和ケアチームとの連携で、治療の初期から手厚いケアを実践しております。

2000年代中頃からがん治療は大きな変革を遂げてきました。以前は抗がん剤治療といえば長期入院が必要でしたが、現在は外来診療が可能となり、多くの患者さんは日々の暮らしとがん治療を両立できるようになっています。社会の変化や医療の発展を見ていると、

近い将来、地域のクリニックで化学療法を実施することも可能になるのではないのでしょうか。また治療法も新たな選択肢が次々と登場しており、近隣の病院との連携もさらに密なものに求められると考えます。私は、かかりつけ医の先生方や連携病院だからできることと、当科がお役に立てること、それぞれの優れた機能を地域連携により繋げ、地域医療の質の向上に貢献していくことを目指します。

PROFILE

- 1990年3月 広島大学医学部医学科 卒業
- 1990年6月 広島大学医学部附属病院 内科 研修医
- 1993年6月 国立がんセンター中央病院 肺内科 レジデント・チーフレジデント
- 1997年6月 広島大学医学部 第2内科 医員
- 2001年4月 近畿大学医学部 第4内科 助手
- 2002年4月 近畿大学医学部 腫瘍内科 講師
- 2005年4月 兵庫県立成人病センター 腫瘍内科 医長
- 2006年9月 大阪医科大学化学療法センター 講師
- 2009年7月 近畿大学医学部 腫瘍内科 准教授
- 2013年4月 関西医科大学 内科学第一講座 診療教授、関西医科大学附属病院 呼吸器腫瘍内科 科長
- 2022年4月 関西医科大学 呼吸器腫瘍内科学講座 主任教授、関西医科大学附属病院 呼吸器腫瘍内科 診療部長、がんセンター センター長

幅広い疾患、複雑な病態へ 横断的内科診療でアプローチします

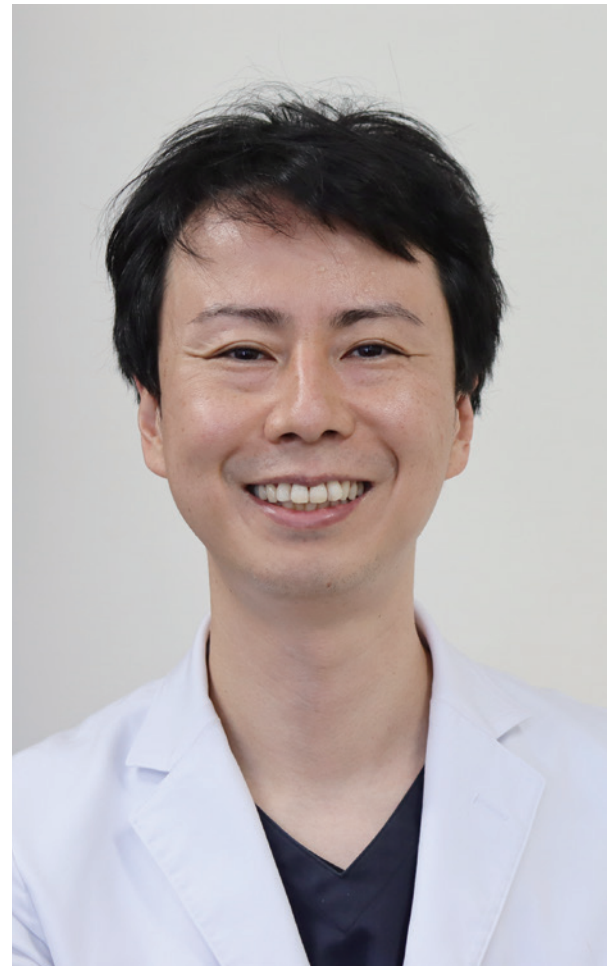
New Professor Interview

新任教授に聞く

関西医科大学附属病院
心療内科学講座 主任教授
心療内科 診療部長

蓮尾 英明

Hideaki Hasuo



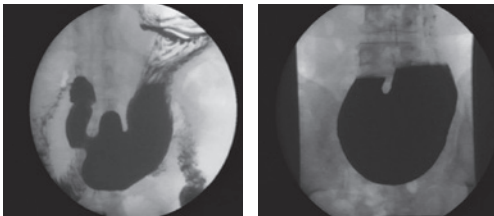
世の中には診断・治療の難しい疾患があふれており、つらい思いをされている患者さんやご家族が多くいらっしゃいます。心療内科は、主に内科領域の疾患を対象に、その診断と治療において身体行動・心理社会的因子の関係を診る心身症の専門家です。臓器の専門性による制限がなく、幅広い疾患・病態の診療を行えることが強みです。一方で、その存在自体がまだ十分に認知されていなくとも否めません。一例として、クローン病で緊張や心労によって症状が悪化する場合や、2型糖尿病でストレスから過食してしまう患者さんは心身症の傾向があり、心療内科的アプローチによる効果が期待できます。アレルギー・免疫疾患、生計習慣病、がん疾患、慢性疼痛等の診察にあたり、心理面に偏らず内科診療全般のスキル、加えて社会学、実存学、哲学などの知識も高もてるよう努めております。

診療では疾患・病態をどのように診ているのか、わかりやすい発信を心がけています。例えば、臓器に異常が見られないのに患者さんに自覚症

状がある機能的障害は、可視化されにくい点に難しさがあり、機能的障害が続くと、患者さん自身の不安や周囲の理解を得にくい状況に繋がります。そこで当科では透視検査、超音波などを工夫し、形態学的な「見える化」、内的生理状態外部表出反応の客観的な評価などに努めています。

なお、講座内診療科に総合診療科があります。心療内科との違いは、病態の把握・治療における比重がより身体面にあるか心理社会面にあるかです。医師のほとんどが両方の科を併任しておりますので、判断が難しい場合はどちらへお声がけいただいても問題ございません。ご紹介いただいた後は、当院にお任せいただくことももちろん可能ですし、地域の先生方を主治医として当科が併診することで、より良く診ていただけるケースも多々あります。今後も横断的内科診療としての専門性をより高め、医療と社会に貢献してまいりますので、よろしくお願いたします。

心と身体の『見える化』の例



正常

機能性ディスぺプシア

上部消化管ビデオ透視検査の事例より。
機能的障害を見る化することにより、患者さん自身の安心と、病態への新たなアプローチに繋がります。

心療内科で扱う疾患(心身症)の一例

- ▶呼吸器系：気管支喘息 等
- ▶循環器系：低血圧症、起立性調節障害 等
- ▶消化器系：空気嚥下症、嘔気症、びまん性食道痙攣、胃・十二指腸潰瘍、機能性ディスぺプシア、過敏性腸症候群、クローン病 等
- ▶神経・筋肉系・整形外科領域：緊張型頭痛、片頭痛、痙性斜頸、書症、慢性リウマチ 等
- ▶内分泌・代謝系：神経性やせ症、甲状腺機能亢進症、糖尿病 等
- ▶皮膚科領域：慢性蕁麻疹、アトピー性皮膚炎 等
- ▶産婦人科領域：更年期障害、月経困難症 等
- ▶泌尿器領域：過活動性膀胱、慢性膀胱炎 等
- ▶耳鼻科領域：咽喉頭異常感症、機能性嚥下障害、機能性めまい、痙攣性発声障害 等
- ▶歯科・口腔外科領域：顎関節症、舌痛症、口腔乾燥症 等
- ▶その他：慢性疼痛、ストレス性高体温症、慢性疲労症候群、がん患者のストレス関連 等

PROFILE

2003年3月 関西医科大学 医学部 卒業
2003年4月 関西医科大学 医学部 心療内科学講座 入局、
洛和会音羽病院総合診療科 研修医
2005年5月 関西医科大学 医学部 心療内科学講座 医員
2008年4月 川崎医科大学附属病院 総合診療科 医員
2009年4月 岡山済生会総合病院 緩和医療科 医員
2012年4月 赤磐医師会病院 消化器内科 医員
2014年1月 国立がん研究センター東病院 緩和医療科 医員
2015年4月 関西医科大学 医学部 心療内科学講座 助教
2019年10月 関西医科大学 医学部 心療内科学講座 講師
2022年4月 関西医科大学 医学部 心療内科学講座 主任教授、
関西医科大学附属病院 心療内科 診療部長、
緩和ケアセンター長

治療・予防の両面から
脳血管障害へアプローチ。
地域一帯となった
予防事業の展開も目指します

New Professor Interview

新任教授に聞く

この度、脳神経外科の特命教授に着任いたしました。専門は脳血管障害の治療・予防であり、得意とするのは動脈瘤、頸動脈狭窄の治療です。脳神経外科領域において苦しむ方の多い「モンテジーズ、いわゆる「よく見られる疾患」を確実に治療し、患者さんに元の生活に戻っていただくことを医師人生におけるコンセプトとしています。

これまで一貫して脳血管障害に携わってまいりましたが、その治療は昔に比べて様変わりしました。最も大きな変化は、血管内治療の分野において、多くの治療が可能になったことです。患部までカテーテルを挿入して行う血管内治療には、低侵襲という大きなメリットがあり、多くの患者さんへの心身の負担を減らしてきました。しかし、より低侵襲であることは、より安全であることと同義ではなく、必ずしも開頭手術より優れているわけではありません。私は国内でも早くから血管内治療に取り組み機会を得て、血管内治療、開頭手術それぞれが持つ良い点を活かした治療を行うべく邁進してまいりました。予後やリスクを見越し、症例と患者さんの状態をよく見極めること、また患者さんのご希望を伺いながら術後の生活、社会復帰まで考慮してより良い方法を選ぶことを信条に、診療にあたっています。

脳卒中は寝たきりになることが多い疾病で、発症後は約3分の1の患者さんは自宅退院できません。私はこの社会問題を解決するには予防こそ重要と考え、スクリーニングにも積極的に取り組んでいます。前職では、稼働可能なMRIを所持する地域のクリニックと協力し、脳ドックを一般より安価に受診できる仕組みを構築しました。北河内エリアでも同様の仕組みを、特に壮年期でリスクファクターのある方（高血圧、高脂血症など）に向けて展開していきたいと考えております。

私の知識や経験を少しでも北河内エリアの皆さまのために役立てられるよう努めてまいりますので、お見知りおきいただけますと幸いです。



関西医科大学附属病院
脳神経外科 理事長特命教授
脳血管内治療科 診療科長

天神 博志

Hiroshi Tenjin

PROFILE

- 1981年3月 京都府立医科大学 卒業
- 1987年4月 京都府立医科大学 脳神経外科学教室 助手
- 1991年6月 Mayo Clinic, Neurosurgery 客員研究員
- 1992年5月 Mayo Clinic, Hematology Research 客員研究員
- 1997年9月 京都府立医科大学 脳神経外科学教室 講師
- 1998年4月 京都府立与謝の海病院 (現・京都府立医科大学附属北部医療センター) 脳神経外科 医長
- 2001年4月 京都府立与謝の海病院 診療部長
- 2006年4月 京都第二赤十字病院 脳神経外科 部長
- 2017年5月 静岡赤十字病院 脳神経外科 部長
- 2020年4月 栄公会佐野記念病院 脳血管センター センター長
- 2022年4月 関西医科大学 脳神経外科 理事長特命教授、脳血管内治療科 診療科長



医科歯科連携を大切に
 歯科・口腔外科の領域における
 適切な医療を提供します

Speciality Service Interview

歯科・口腔外科・口腔ケアセンターのご紹介

関西医科大学附属病院
 歯科・口腔外科 教授
 歯科・口腔外科・口腔ケアセンター センター長

兒島 由佳

Yuka Kojima



2022年春より、歯科口腔外科は名称を「歯科・口腔外科・口腔ケアセンター」と改め、再出発しました。診療内容自体は変わりませんが、これまでの体制を引き継ぎ発展させていくことがセンター長の務めであると、思いを新たに日々の業務に臨んでいます。

私は歯学部を卒業後、開業医の下で歯科医師として勤務していました。当時、高齢者の方や合併症をお持ちの患者さんに接する中で、薬の処方や麻酔時のケア、精神的ケアにおける全身管理の重要性を感じ、歯科口腔外科へ入局してさまざまな病院で研鑽を積んでまいりました。診療にあたっては患者さんの訴えを傾聴し、しっかり

り理解することを心がけています。

当センターは、周術期の口腔ケアを始めとした専門的口腔機能管理と、口腔外科的疾患の診療手術を行っています。周術期のケアでは、専門的口腔管理を行うことにより、誤嚥性肺炎・術後肺炎の予防や口腔粘膜炎による疼痛の緩和に努め、不快な口腔内の症状を少しでも取り除くことで早期経口摂取の開始、早期退院に繋げるべく励んでいます。口腔外科的疾患については、埋伏智歯、嚢胞、口腔領域の炎症性疾患、粘膜疾患、顎関節症、顎骨壊死などを扱っています。大学病院ということもあり、治療にリスクのある患者さんや全身状態の良くない難症例の方

が多くおられ、そういった患者さんの診療の際には、いつもご紹介いただく地域の先生方との情報共有の重要性をひしひしと感じます。これからも医科歯科連携を大切にしながら、全身状態をしっかり把握して治療に取り組んでまいります。当科では開業医の先生方だけでなく他病院とも連携を取っており、治療方針の選択枝もいろいろご相談いただけますので、口腔外科的疾患を抱える患者さんがいらっしゃればお声がけいただけますと幸いです。

今後は急患対応にも力を入れ、患者さんや地域の先生方のさらなるニーズにお応えできるよう努力していく所存です。

PROFILE

- 1995年3月 大阪大学 歯学部 卒業
- 1996年4月 京都大学医学部附属病院 歯科口腔外科 入局
- 1997年4月 京都第一赤十字病院 歯科口腔外科 医員
- 2001年4月 新香里病院 歯科口腔外科 医員
- 2005年4月 宇治武田病院 歯科口腔外科 医長
- 2007年4月 枚方公済病院 歯科口腔外科 医長
- 2018年7月 関西医科大学附属病院 耳鼻咽喉科 歯科・口腔外科 講師
- 2019年8月 関西医科大学附属病院 耳鼻咽喉科 歯科・口腔外科 准教授
- 2022年4月 歯科・口腔外科・口腔ケアセンター センター長



心不全パンデミックが予想される今こそ、 地域医療の連携強化を

New Chief Interview

新任部長に聞く

関西医科大学総合医療センター
循環器腎内分泌代謝内科
診療部長

朴 幸男

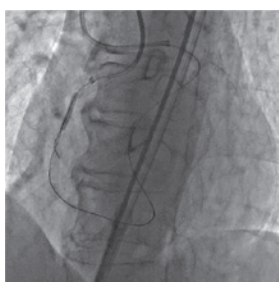
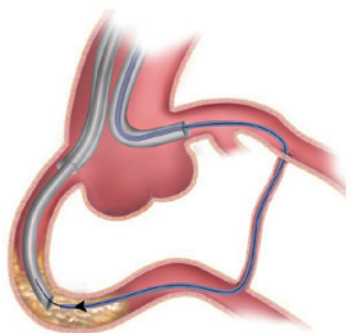
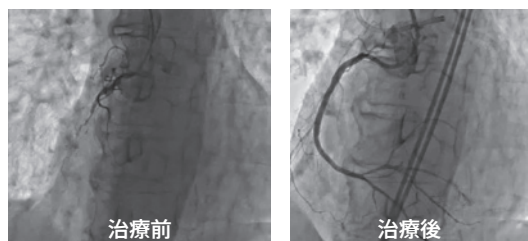
Haengnam Park

この春より循環器腎内分泌代謝内科の診療部長を務めております。当科は循環器内科・腎臓内科・内分泌代謝内科の3つの専門内科で構成されています。ここ十年ほどで注目されるようになった心腎連関ですが、心疾患・慢性腎臓病・糖尿病には密接な繋がりがあります。当科ではこれら全ての領域を一つの科とするこゝとで、各専門内科領域の診療はもちろん、より効率的で包括的な医療を提供してまいりました。さらに、最新のエビデンスに基づいた最適な診療を心がけており、今後は診療部長として「断らない科」であるべく体制強化に尽力する所存です。

この春より循環器腎内分泌代謝内科の診療部長を務めております。当科は循環器内科・腎臓内科・内分泌代謝内科の3つの専門内科で構成されています。ここ十年ほどで注目されるようになった心腎連関ですが、心疾患・慢性腎臓病・糖尿病には密接な繋がりがあります。当科ではこれら全ての領域を一つの科とするこゝとで、各専門内科領域の診療はもちろん、より効率的で包括的な医療を提供してまいりました。さらに、最新のエビデンスに基づいた最適な診療を心がけており、今後は診療部長として「断らない科」であるべく体制強化に尽力する所存です。

遠くない未来、超高齢化社会の到来とともに「心不全パンデミック」が起こることが予想されます。専門的な診療は当院にお任せいただくとしても、特に循環器疾患の患者さんには継続した薬物治療が必要であり、病診連携、病病連携の重要度はさらに高まっていくでしょう。地域の先生方と情報を密に共有し、共

に地域の皆さんの健康に寄与できれば幸いです。各専門内科領域に関する治療、予防の最新情報も随時発信していきますので、今後ともよろしく願っています。



慢性完全閉塞に対する
両方向性アプローチの血行再建手術

PROFILE

- 1997年3月 韓・釜山大学校 医学部医学科 卒業
- 2000年4月 関西医科大学附属病院(現・総合医療センター) 第二内科(循環器腎内分泌代謝内科)入局
- 2004年8月 新宮市立医療センター 循環器内科(医長)より帰向
- 2007年4月 関西医科大学附属滝井病院(現・総合医療センター) 第二内科 助教
- 2012年4月 関西医科大学附属滝井病院(現・総合医療センター) 第二内科 外来医長
- 2016年4月 関西医科大学総合医療センター 第二内科 講師
- 2017年4月 関西医科大学総合医療センター 病棟医長
- 2022年4月 関西医科大学総合医療センター 第二内科 准教授、循環器腎内分泌代謝内科 診療部長

「血栓止血センター」を開設。
出血性疾患・血栓症に
苦しむ患者さんを減らしたい

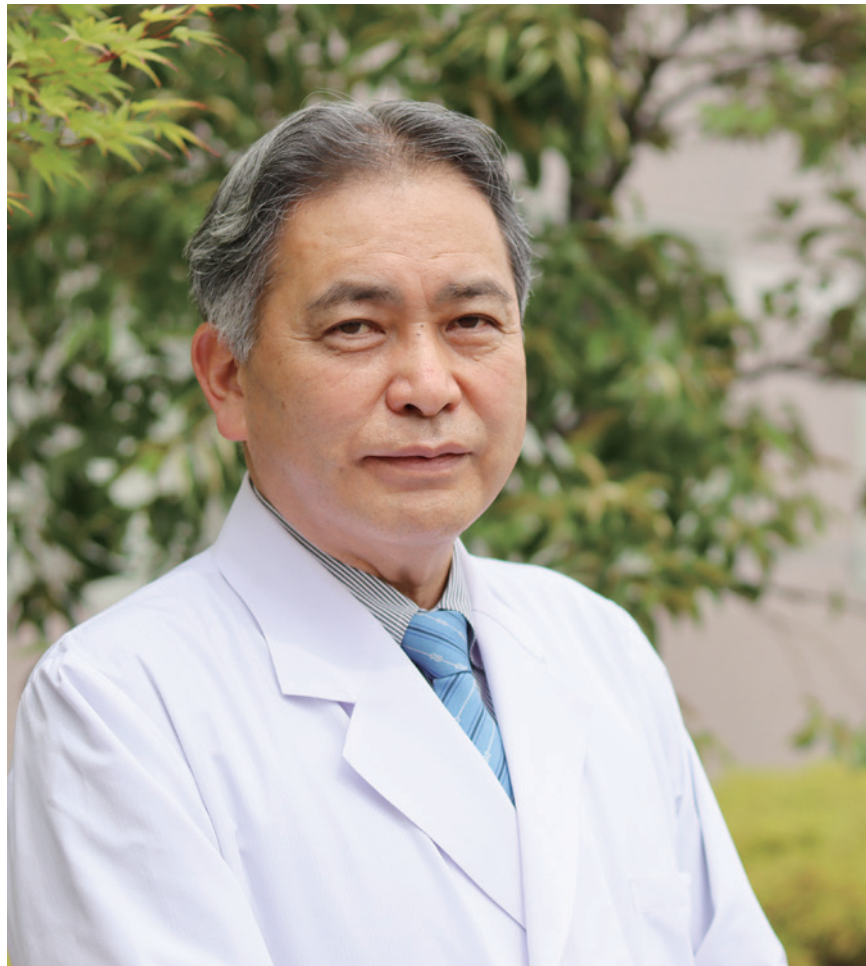
Speciality Service Interview

センター長に聞く

関西医科大学総合医療センター
理事長特任教授
血栓止血センター センター長

野村 昌作

Shosaku Nomura



今年の春、当院への着任とともに血栓止血センターを開設しました。私の専門領域は血液学・血栓止血学・輸血学であり、中でも出血性疾患の診療をライフワークとしております。前職の附属病院では、血友病を含めた凝固異常を多く診療してきました。

止血・凝固の異常は、さまざまな要因によって「出血性疾患」と「血栓症」という相反する2つの病態を引き起こします。そしてこれらは、がんや基礎疾患に合併することも稀ではありません。血栓止血センターの役割は、出血と血栓に関する病態・疾患を扱い、その診断や治療に寄与することです。

たとえば、血小板や凝固因子の異常が考えられる、原因不明の紫斑や血栓がある、血友病の疑いがあるといった患者さんがいらっしゃればご連絡ください。患者さんのご希望に合わせ、地域の先生方との併診も対応しております。またご存じのように、がんや糖尿病、高血圧、高コレステロールの方は、血管の詰まりから脳梗塞や心筋梗塞などの余病を引き起こす確率が高まります。これらの治療を始めるにあたり、薬の種類や量に迷われた場合もお気軽にお声がけください。特に抗凝固療法においては、これまで内服薬としてワーファリンが主流でしたが、近年ではコントロールがより容易なDOACという薬が出ています。当院で処方を行い、先生方のもとへお帰りいただくことも可能です。患者さん一人ひとりとよく対話しながら生活環境まで見越した診療を提供し、当センターが地域の皆さまのお役に立てることを願っております。

もう一つ、私が注力している取り組みをご紹介します。枚方の附属病院で、診療科が連携

して血友病患者さんをトータルケアする「血友病包括診療システム」をスタートさせました。血友病の患者さんやご家族、保因者の方を対象に、心身の負担を減らすこと、また小児科から内科へのトランジットをスムーズに行うことを目的としています。枚方だけでなく近隣エリアも対象にしておりますので、ご注目いただけますと幸いです。



PROFILE

- 1981年3月 関西医科大学 医学部 卒業
- 1982年4月 関西医科大学 第一内科 入局
- 1994年7月 関西医科大学 第一内科 講師(輸血部講師兼任)
- 1999年5月 米国OAPメリーランド医学研究所 止血血栓部門研究員
- 2000年4月 関西医科大学附属香里病院 内科医長(輸血医長兼任)
- 2003年4月 関西医科大学 第一内科 助教授
- 2003年10月 市立岸和田市民病院 血液内科 部長
- 2010年4月 関西医科大学 内科学第一講座 主任教授
- 2022年4月 関西医科大学総合医療センター 血栓止血センター センター長



「ここに任せて良かった」
 そう言っていただける
 総合的な女性診療科を目指して

New Professor
 Interview

新任教授に聞く

関西医科大学総合医療センター
 産婦人科
 部長 病院教授

吉村 智雄

Tomoo Yoshimura

地域の先生方には日頃より大変お世話になっております。この度、病院教授に就任いたしましたので改めてご挨拶申し上げます。

私の医師のキャリアは産科領域から始まり、腹腔鏡手術の権威である先生の下で学ぶ機会を得たことから腹腔鏡手術に興味を持ち、以来、婦人科領域で研鑽を積んでまいりました。最も得意とするのは腹腔鏡下の子宮全摘術で、手術に際しては子宮を小さくするホルモン治療を可能な限り先行させ、「いかに安全に手術を行えるか」を最優先にしています。他の症例でもより低侵襲な手術を選択するように心がけていますが、一方で子宮筋腫核出術においては術後の妊娠も考え、低侵襲に固執せず患者さんとよく相談のうえ対応しています。

当院の産婦人科は総合的な女性診療科を目指し、周産期医療、婦人科、生殖医療、女性医療を扱っています。周産期領域における特色は、精神疾患の妊婦さんの対応が可能であることと、産後ケア事業の入院受け入れにも力を入れている点です。子宮卵管造影など検査のみ当院へご依頼いただくことも可能ですので、妊娠褥婦さんの経過観察中に何らかの異常や合併症が見つかった場合にはお声がけください。婦



人科領域では関西医大系列病院の中で手術待機期間が最も短く、ご相談いただきやすい環境です。がん症例も年々増えており、手術・抗がん剤治療・放射線治療（組織内照射や血管内治療）など集学的治療を提供してまいりました。また、漢方専門医による漢方外来も設けております。

当科は熱心に学ぶ医師が多く、病棟で何かあった際にもすぐに駆けつけられる体制を整えています。もし当院では対応が難しい患者さんでも系列病院へスムーズに連携しますので、ご安心ください。患者さんから当院でお産や手術をして良かった、と言っていたらと大きな喜びを感じます。地域の先生方からも「任せて良かった」と思っていたただける産婦人科であるよう、引き続き尽力していく所存です。

PROFILE

- 1996年3月 関西医科大学医学部 卒業
- 1996年4月 関西医科大学附属病院 産婦人科 入局
- 1998年11月 関西医科大学附属洛西ニュータウン病院 産婦人科
- 2003年4月 宝塚市民病院 産婦人科 出向
- 2004年3月 関西医科大学大学院 医学研究科 外科系産科婦人科学 博士課程 修了
- 2004年4月 関西医科大学附属男山病院 産婦人科
- 2006年4月 関西医科大学附属滝井病院（現・総合医療センター）
- 2008年7月 大阪府済生会野江病院 産婦人科へ出向
- 2014年4月 関西医科大学附属枚方病院（現・附属病院）産婦人科
- 2016年4月 関西医科大学総合医療センター 産婦人科 講師
- 2018年4月 関西医科大学総合医療センター 産婦人科 部長
- 2022年4月 関西医科大学産科学婦人科学講座 准教授
 関西医科大学総合医療センター 病院教授

療養生活を安心して
送っていただくための、
認定看護師による外来です

Specialist

がん看護外来

がん看護外来は、がんと診断された患者さん
とご家族に対し、安心して療養生活を送るため
のサポートを行う部署です。近年ではがん治療
の選択肢が増え、患者さんにとって良いことなの
ですが、かたや意思決定に迷われる方、経済的な
不安を抱く方もいらっしゃいます。そこで当外来
では、日常生活の中で抱える不安、治療に関し
ての不安、診察の場で相談するのに迷う
ことなど、患者さんやご家族が心の内を遠慮な
く話せる外来であるべく活動を続けてまいりま
した。

所属する看護師5名はがんに関連する専門、
認定看護師であり、ご希望の患者さんやご家族

からの相談やご依頼を受けています。大切にし
ているのは、患者さんやご家族と同じ目線で考
えること、患者さん達を取り巻く環境を専門
家として俯瞰的に捉えることです。お話を伺っ
ただけで患者さんが安心、納得されるケースもあ
れば、課題解決に他職種との連携が必要なケー
スもあります。そんな時は医師や看護師、訪問看
護ステーションへの情報共有や直接的な働きか
けを行い、患者さん達の意向を「部署を超えた連
携」で医療や生活に反映できることが、私たち
がん看護外来の強みであると考えています。また、
当院でがん治療を終えられた患者さんに対し
て、必要と思われる情報については地域の医療

機関にご連絡差し上げるよう心がけておりま
すので、その際にはよろしくお願ひいたします。
がん看護外来がどういった部署なのか、患者
さんサイドだけでなく医療者にもまだまだ見え
にくい点があるかもしれません。現在、当院の緩
和ケアチームが地域に向けた発信に力を入れて
いますので、緩和ケアチームと協働しつつ、医療
行為以外の「ナースが行うケア」を可視化し、地
域の医療に貢献していきたいと思っております。今後
も、患者さんご家族がつかいやすい時期にも医療者
と一緒に歩んでいけるよう、担当科との橋渡しと
して取り組んでまいります。



関西医科大学総合医療センター
がん看護外来

大橋 理紗

Risa Ohashi

PROFILE

岡山大学 医学部 保健学科 卒業
大阪大学医学部付属病院 勤務

2017年 関西医科大学香里病院 勤務
2018年 京都府立医科大学大学院 進学
2020年 関西医科大学総合医療センター 勤務、
がん看護専門看護師の認定を取得
2021年 関西医科大学総合医療センター
緩和ケアチーム 専従看護師



真に「断らない病院」であるべく
取り組みを進めています

Speciality Service Interview

新任部長に聞く

関西医科大学香里病院
地域医療連携部
部長

延山 誠一

Seiichi Nobuyama

地域医療連携とは、患者さんの紹介・逆紹介だけでなく、医療サービス全体の連携であると考えます。私はこれまで専門領域の呼吸器内科における「KOROPログラム」などを通じ、地域の先生方、医療スタッフの方々と地域医療の充実に取り組みでまいりました。施設を超えた取り組みの中、多くの方々と熱意を共有できることは大きな喜びです。これからは地域医療連携部長として、経験を活かし、当院全体が地域との絆をさらに深められるよう模索行動してまいります。

現在、当院では岡崎病院長の牽引の下、「断らない病院」であるべく、診療領域の穴を塞ぐ取り組みを一丸となって進めています。以前であれば「香里病院は循環器・消化器に強い」という印象が強かったかと思いますが、たとえば呼吸器内科を専門とする私の着任、また神経内科外来の夕診開設により、それぞれの領域の患者さんをカバーできるようになりました。昨春秋にはプライマリ・ケアを専門とする右丸医師が着任

したことで内科が「内科・総合診療科」となり、それに伴って内科・総合診療科、整形外科による夜間救急体制もスタートしております。これらを実現化するために今最も力を入れていることが、枚方の附属病院、総合医療センターとのホットラインシステムの構築です。当院では対応が難しい患者さんでも対応できるよう、脳神経疾患であれば附属病院へ、三次救急や二次救急循環器疾患であれば総合医療センターへとシームレスな連携システムを築きました。現在100%に近い受け入れ実績を上げております。

地域の先生方、救急隊員の皆さんに「困ったときは香里病院に電話すれば何とかしてくれる」と安心してお任せいただけること。これが「断らない病院の実践」であると考え、今後地域医療の一助となるよう頑張っております。地域連携に関する情報も積極的に発信してまいりますので、関心をお寄せいただけますと幸いです。

PROFILE

- 1993年3月 兵庫医科大学 卒業
- 1993年6月 兵庫医科大学病院 勤務
- 1995年7月 西宮市立中央病院 勤務
- 1997年7月 国立療養所近畿中央病院 勤務
- 2001年1月 宝塚市立病院 勤務
- 2002年8月 大阪警察病院 勤務
- 2004年6月 兵庫医科大学 呼吸器内科 助教
- 2006年11月 井上クリニック 内科 部長
- 2007年1月 聖マリアンナ医科大学 呼吸器内科 講師
- 2015年4月 国際医療福祉大学熱海病院 呼吸器内科 病院教授
- 2019年4月 関西医科大学香里病院 内科 准教授
- 2019年12月 関西医科大学香里病院 病院教授
- 2022年4月 関西医科大学香里病院 地域医療連携部 部長

重症化予防を重要テーマに、
地域全体で患者さんを
診ていくことに貢献したい

Speciality Service Interview

新任センター長に聞く

香里病院では2010年の開院時西日本の大学病院において初の外来維持透析(現腎臓病センター)をスタートさせました。以来約12年間、医師・看護師・臨床工学技士が力を合わせてチーム医療を行っています。毎週3回の長時間にわたる透析は、患者さんにとって大変な負担ですので、私たちは透析治療の質の向上はもちろん、患者さんの精神的な苦痛も和らげられるようコミュニケーションを大切に日々の診療にあたっております。

私は現在、腎臓病領域を専門としておりますが、医師のキャリアは循環器内科における心臓救急から始まり、「糖尿病患者の心臓病」に関する研究をきっかけにいち早く心腎の関連にも着

目して、腎臓病への複眼的な診療に取り組んでまいりました。特に力を入れているのが、重症患者を増やさないための予防活動です。2011年、寝屋川市では人口比における透析患者数が全国平均よりも多いことが分かり、行政は生活習慣病、特に腎臓病の重症化予防事業を積極的に展開してきました。私は当院の開院と同時に着任して以来、この事業に賛同し、微力ながら一杯取り組んでおります。今は年4回保健師医師会の専門医の方々とカンファレンスを設け、保健師さん達の保健指導や対象者向け腎教室の実施に役立てていただいています。取り組みの甲斐あり、近年は新規透析導入患者数の増加も抑制傾向にありますが、一方で2020年の行政

の分析では、新規人工透析導入患者の約2/3が健診を受診していないことが分かりました。今後はより多くの人に健診を受けていただくことを目指し、啓発活動を推進していく所存です。

当院は、地域に根ざし、地域とともに歩む病院という理念を掲げ、地域密着型の医療を推進しています。腎臓病重症患者を増やさないためには、かかりつけ医の先生方とのかわりが欠かせません。引き続き、行政・医師会・専門医の密接な繋がりに寄り添い、腎疾患をはじめ生活習慣病の患者さんを守る体制づくりに貢献していきたいと考えております。

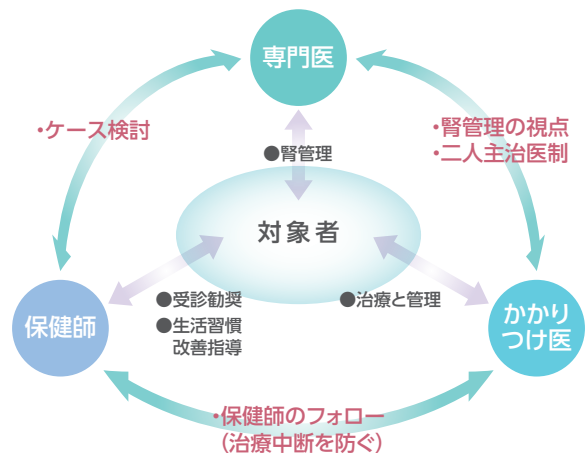


関西医科大学香里病院
腎臓病センター センター長
理事長特命教授

高橋 延行

Nobuyuki Takahashi

腎臓病重症化予防地域連携システム



PROFILE

- 1981年3月 関西医科大学 医学部 卒業
- 1991年6月 医学博士号取得(糖尿病による心臓機能障害に関する臨床的研究)
- 1991年7月 米国ハーバード大学 プリガム・アンド・ウィメンズ病院
内科心臓血管部門へ留学(Wilson S Colucci 研究室/心肥大・心不全のメカニズムに関する基礎的研究)
- 2010年7月 関西医科大学香里病院 内科 准教授、血液浄化療法部
部長、地域医療連携部 部長
- 2022年4月 関西医科大学香里病院 理事長特命教授、腎臓病センター センター長

Speciality Service Interview

- ・アレルギー疾患への取り組み
- ・感染制御部のご紹介

耳鼻咽喉科ではアレルギー性鼻炎、指定難病である好酸球性副鼻腔炎といった鼻副鼻腔アレルギー疾患の治療を積極的に行っています。鼻内内視鏡手術、新規抗体療法などを組み合わせた最適な治療の実践と、診療にあたっては患者さんにご安心いただける丁寧な対応を心がけています。

私は耳鼻咽喉科領域のアレルギー疾患を専門にしており、特にアレルギー性鼻炎の舌下免疫療法を全国でもいち早く導入し症例を重ねてまいりました。舌下免疫療法は従来の皮下注射による免疫療法に比較して通院の頻度、副作用

手術から免疫療法まで
アレルギー疾患なら
お任せください



関西医科大学香里病院
耳鼻咽喉科 病院准教授、診療部長
感染制御部 部長

濱田 聡子

Satoko Hamada

が少ない利点があり、また幼少期の導入で他のアレルギー疾患の併発を防ぐ効果も期待できる治療です。お心当たりの患者さんがいらっしゃればお声がけください。

アレルギー疾患は全身を横断する症状が出ることも多い病気です。院内外の連携を大切にすることはもとより、今後は包括的医療を行えるアレルギー専門医の育成にも携わり、当院の体制をさらに強めていきたいと考えております。

感染制御部の活動について

2018年より感染制御部（ICU）の部長を務めています。ICUとは、院内の感染症治療や感染対策を担う部門です。スタッフは医師、看

護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職員など多種から構成されており、それぞれの専門性を持ち寄りながら感染防御活動や職員への啓蒙などを行っています。

特に2020年に新型コロナウイルス感染症の流行が始まってからは、院内PCR検査の体制を整えたり、発熱外来を設けたりと、岡崎院長の下、チーム一丸となって院内の感染症対策を推進してまいりました。未曾有の事態にもかかわらず、コロナ禍においても安全に医療を提供してこられたのは、当院の全スタッフの努力あつてのことだと自負しております。今後も地域から信頼される病院として機能を維持できるよう、最新の情報を共有しながら迅速・柔軟に対応できるように尽力してまいります。

PROFILE

2000年3月	大阪医科大学 卒業
2000年6月	関西医科大学附属病院 耳鼻咽喉科 研修医
2002年5月	市立柏原病院 耳鼻咽喉科 医員
2003年4月	関西医科大学附属男山病院 耳鼻咽喉科 助手
2005年4月	関西医科大学大学院 医学研究科博士課程 入学
2009年3月	関西医科大学大学院 医学研究科博士課程 卒業
2009年4月	美杉会男山病院 耳鼻咽喉科 医長
2011年4月	星ヶ丘厚生年金病院(現・星ヶ丘医療センター) 耳鼻咽喉科 医長
2013年3月	関西医科大学香里病院 耳鼻咽喉科 助教
2013年5月	関西医科大学香里病院 耳鼻咽喉科 診療部長、病院講師、 関西医科大学附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 診療講師
2018年4月	関西医科大学香里病院 感染制御部 部長
2020年4月	関西医科大学香里病院 耳鼻咽喉科 病院准教授



手厚いケアと予防啓発活動で
地域の健康に尽くします

New Doctor
Interview

新任医師に聞く

消化器内科

杉本 崇宰

Shusai Sugimoto

私の専門は消化器内科ですが、これまで臨床で経験を積む中で、内科領域全般に携わってまいりました。消化器内科医といえは胃や大腸、肝臓などを中心に診る印象が強いかと存じますが、その原因となった疾患まで遡っての診断、治療も重要なスキルと考えております。消化器疾患、またはそれを疑うような症例があれば、検査、診断、治療まで手厚いフォローに努めます。検査のみのご依頼でもお気軽にお声がけください。地域の先生方に向けては、近くご挨拶に伺う予定ですので、各医院のご状況や得意領域、病診連携におけるお困りごとなどご教示いただけますと幸いです。また、地域の皆さんの健康寿命に寄与するには、予防・早期発見のための地道な啓発も欠かせないと考えております。積極的な発信にも努めていきますので、ぜひご注目ください。

PROFILE

- 2012年3月 関西医科大学 医学部医学科 卒業
- 2012年4月 関西医科大学 卒後臨床研修センター 所属
- 2014年4月 関西医科大学 第3内 入局
- 2016年4月 静岡市立静岡病院 消化器内科 医師
- 2017年11月 大阪府済生会泉尾病院 消化器内科 医師
- 2019年5月 大阪府済生会泉尾病院 消化器内科 副医長
- 2021年4月 関西医科大学総合医療センター 消化器内科 病院助教
- 2022年4月 関西医科大学くずは病院 内科 病院助教

専門性を高め、
地域医療に貢献していきます

New Doctor
Interview

新任医師に聞く

整形外科

水野 一秀

Kazuhide Mizuno



PROFILE

- 2017年3月 近畿大学 医学部医学科 卒業
- 2017年4月 関西医科大学附属病院 研修医
- 2019年4月 関西医科大学附属病院 整形外科 医員
- 2020年4月 社会医療法人有隣会東大阪病院 医員
- 2021年4月 マックスール異病院 医員
- 2022年4月 関西医科大学くずは病院 整形外科 助教

これまでの勤務先では外傷の手術、骨折治療に多く携わってきました。経験を活かし、地域医療に貢献できるよう努めてまいります。また、肩・膝関節疾患に強く興味を持っており、それらを専門とする山口診療部長の下、研鑽を重ねていきたいと思っております。

当科では診療放射線技師など医療スタッフとの連携が強く、MRIやCT検査が迅速に行えます。そのため早期の治療介入が可能であり、より専門的な診療が必要な場合も系列病院へスムーズに連携できる点が大きな強みです。病診連携を通じて、地域の先生方から学ばせていただく機会も多いと存じます。まだまだ修行中の身ではありますが、若手ならではの積極的な姿勢で当科に新しい風を吹き込めるよう邁進してまいりますので、よろしくお願いたします。



健診の充実とあわせ、
診療クリニックとしても
存在感を高めていきます

関西医科大学天満橋総合クリニック
院長

大宮 美香

Mika Omiya

New Hospital Director Interview

新院長に聞く

「つなぐ14号」では、当クリニック着任にあたりご挨拶させていただきました。このたび院長に就任いたしましたので、改めてのご挨拶と、今後の展望についてお話しします。

当院の健診部門は50年以上の歴史を有します。浦上前院長のご尽力もあり、多くの方にご信頼いただくクリニックとして継続してきました。時代とともに求められる検査内容も変化してきましたが、その中でも長く通っていただいている受診者の方が多く、持続的なニーズにお応えできているのではと捉えております。コロナ禍に入ってから健診控えが話題となり、一時はがんの発見率が低下したというデータが出たことには、健診に携わる者として憂慮しておりました。ですが現在は受診者数も回復の兆しを見せており、当クリニックでも感染対策を十分に講じた上で、安全な業務に臨んでいます。今後も個人のニーズに応えつつ、時代の変化に遅れをとることのない様に、随時、健診メニューの見直しなどに努めてまいりたいと思います。

さて、院長として特に注力したいと考えているのが、併設する外来診療部門の充実です。現在、内科・眼科・皮膚科・乳腺外科・放射線科の5科からなり、いずれも専門医が診療を担当しています。内科においては、循環器疾患、腎疾患、甲状腺疾患、糖尿病などの代謝性疾患、消化器疾患の各分野で、踏み込んだ対応が可能なスタッフが診療にあたっています。プライマリケアからより専門的な医療まで、フット

ワーク軽く提供できる、立ち寄りやすいクリニックを目指しています。また、当院から関西医科大学グループ関連病院や、地域の連携病院へご紹介した患者さんが、急性期治療を終えられて地域に戻られる際に選んでいただくクリニックであるよう、さらに充実を図っていきたく考えています。

近隣エリアにお住まいの方やお勤めの方々にとって、かかりやすく、信頼されるクリニックとなるよう、院長として尽力してまいります。

PROFILE

- 1989年3月 関西医科大学 医学部 卒業
- 1989年6月 関西医科大学 麻酔科学講座 入局
- 1992年11月 関西医科大学附属香里病院 第1内科 入局
- 1996年5月 関西医科大学附属香里病院(現・関西医科大学香里病院) 第1内科 助手
- 2006年1月 関西医科大学 内科学第三講座 助手
- 2010年6月 関西医科大学香里病院 内科 診療講師
- 2021年4月 関西医科大学天満橋総合クリニック 内科
- 2022年4月 関西医科大学天満橋総合クリニック 院長

■ **関西医科大学附属病院**

TEL.072-804-0101 (代)
<https://www.kmu.ac.jp/hirakata/>
 〒573-1191 大阪府枚方市新町2-3-1
 地域医療連携部 病診連携課(地域医療センター事務局)
 TEL.072-804-2742 FAX.072-804-2861



■ **関西医科大学総合医療センター**

TEL.06-6992-1001 (代)
<https://www.kmu.ac.jp/takii/>
 〒570-8507 大阪府守口市文園町10-15
 地域医療連携部 病診連携課
 TEL.06-6993-9444 FAX.06-6993-9488



■ **関西医科大学香里病院**

TEL.072-832-5321 (代)
<https://www.kmu.ac.jp/kori/>
 〒572-8551 大阪府寝屋川市香里本通町8-45
 地域医療連携部 病診連携係
 TEL.072-832-9977 FAX.072-832-9988



■ **関西医科大学くずは病院**

TEL.072-809-0005 (代)
<https://www.kmu.ac.jp/kuzuha/>
 〒573-1121 大阪府枚方市楠葉花園町4-1
 地域医療連携課
 TEL.072-809-0013 FAX.072-809-0022



■ **関西医科大学天満橋総合クリニック**

TEL.06-6943-2260 (代)
<https://www.kmu.ac.jp/temmabashi/>
 〒540-0008 大阪市中央区大手前1-7-31 (OMMビル 3階)
 TEL.06-6943-2260 FAX.06-6943-9827

